

里垣小学校 学校評価 資料

領域	重点目標	番号	評価者	質問紙項目	1	2	3	4	そう思う・ややそう思う・あまりそう思わない・そう思わない
かしこい子どもを育てるために	言語活動を充実させ、基礎基本の学力を育てる	1	教師	文章や図表などを正しく読み取る力を育てる指導を行っている。	53	47	0	0	
			児童	文章や図表などを正しく読み取ることができる。	↑53	36	8	3	
			保護者	子どもは文章や図表などを正しく読み取る力が育っている。	39	48	10	3	
		2	教師	子どもたちが読書を楽しめるような工夫をしている。	78	22	0	0	
			児童	いろいろな本を自分から進んで読んでいる。	↑58	26	10	5	
			保護者	子どもは自分から進んで本を読んでいる。	47	27	18	9	
		3	教師	達成感の持てるわかる授業・楽しい授業を行っている。	47	53	0	0	
			児童	授業はわかりやすく楽しい。	↑68	23	8	1	
			保護者	子どもは授業の内容がわかっている。	↑53	39	8	0	
	一人ひとりを大切にしたいきめ細かな学習指導をする	4	教師	T.T少数人数指導など学習形態を工夫している。	28	56	11	6	
			児童	授業の中で先生に個別(T.T.)に教わるとわかりやすい。	↑75	18	5	2	
			保護者	学校が行っている個別指導や少数人数指導は子どもにとって理解しやすい。	54	37	8	0	
5		教師	授業以外の時間に個別指導をしている。	47	53	0	0		
		児童	勉強が分からないときには、先生が手助けをしてくれる。	78	20	1	1		
		保護者	勉強が分からないときには、さらに丁寧な指導をしてくれる	↑57	33	7	2		
6		教師	日々、適切な分量の課題を与えている。	76	24	0	0		
		児童	宿題はきちんとやっている。	73	20	5	2		
		保護者	宿題はきちんとやり毎日学校に持って行っている。	81	14	3	2		
7	教師	個々の努力や成果を認め、励まし伸ばしている。	76	24	0	0			
	児童	先生は努力したことをみとめ、励ましてくれる。	72	24	3	1			
	保護者	学校は子どもの良いところを認め、伸ばそうとしている。	↑74	24	2	0			

自己評価(取組状況・成果・課題)	改善策	学校関係者評価でいただいた意見等
<p>今年度の校内研究の主題を”自ら考え判断し、実践できる児童の育成”とし、道徳や外国語など新学習指導要領の完全実施に向けて新しく学習する内容についてどう指導を行っていくかについての研究を行ってきた。基礎・基本的な学力については、昨年度までの継続研究の成果がさらに浸透して評価が高くなっている。今後とも次年度に向けてこの方向で取り組んでいく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝学習や授業のはじめの時間等に、計算力や漢字の読み書きの力を確実に身につけられるように、継続的に計算プリントや漢字テスト等に取り組ませる。また、発達段階に応じた音読や暗唱に取り組ませる。</li> <li>・「見通し」「振り返り」を大事にした授業を実践する。特に、算数の授業においては、問題場面を読み取り、自分の考えを図表などに表して、立式する力を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家読、読み聞かせボランティア等の読み聞かせなど様々な取り組みが子どもたちの読書に関する興味・関心を喚起しているようである。今後とも取り組みを継続してもらいたい。</li> <li>・「君はどう生きるか」という本がベストセラーとなり、内容もいい本だと聞く、子どもたちにもいい影響を与えるものだと思うので図書室などで推薦し、多くの子どもたちに紹介してほしい。</li> </ul>
<p>読書については、前年度から引き続き”家読”をはじめ、ボランティアや教師等による読み聞かせ、読書週間の取り組みなど図書館主任や司書を中心に全校で取り組んできている。教師側では、その工夫について評価が高くなっているが、児童、保護者にまではまだその成果を感じるには至っていない。今後ともさらに工夫を続け家庭との連携を視野に入れた取り組みを工夫していくことが課題となっている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館主任と司書が中心となり、読書週間の取り組み、家読等を行い、児童の読書に対する意欲を高めていく。また、朝読書の時間にボランティアや教職員による読み聞かせや本の紹介を行う。本の紹介の際には、里垣小ブックリストも活用して、児童の発達段階に応じた本を紹介し、読書の質的向上を図る。</li> <li>・懇談会や学年だより等を通して、家庭での読書意欲を向上させるための方法について、保護者に紹介していく。</li> </ul>	
<p>授業について各教科について、各学年、担任が工夫した授業を行ってきた。その成果として児童、保護者の方々にも肯定的な評価が多くなってきている。今後とも継続して授業改善を工夫していくことでさらに子どもたちにとって分かりやすく楽しい授業が行われるよう努力を続けていきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科の学習に関する各種調査(全国学力学習状況調査や学力把握調査等)を分析し、児童の実態を把握する。その上で授業の改善案を適切に立案し、実践するように努める。</li> </ul>	
<p>今年度は、T、Tや少人数指導などの学習形態の工夫について十分な時間の確保が出来ず、教師側の評価が下がっている。教育課程が新しくなるため授業内容についての改善点や工夫しなければならないことが多く、学習形態にまで至らなかったという側面もあるが、子どもたちにとっては、個別指導で教わることの良さを実感している割合が多いことを含めて、次年度に向けて改善していかなければならない事の一つである。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・可能な限りTTや少人数指導を可能にする計画を立てるように努力する。学級担任とTTとで、学級の実態を共有する時間を確実に設け、授業場面でより効果的な支援を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人的配置の問題もあり、十分に対応することが難しい面もあるが、様々な工夫でできる限りきめ細かい対応をしていってほしい。</li> </ul>
<p>個々の担任の努力が保護者の方々の高評価につながっている。個々の子どもたちの個性に応じることは、きめ細かい指導が必要であり、様々な時間をやりくりしながら行わなければならない。教師側では、更に個別指導の時間確保に改善する余地があると考えている方々が多いが、今後とも時間確保に向けた工夫を行い、今後とも高い評価がいただけるように取り組んでいきたい。今後は、家庭学習の内容についても考えていきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要に応じて、休み時間等の個別指導の時間を確保していく。また、学生ボランティアを活用し、休み時間に個別指導を行う体制を整える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・放課後子どもと向き合う時間が大切である。教育は、子どもたちの伸びていく方向をサポートすることが本来の姿であると考えている。その意味でも保護者が安心して託せているのではないかと感じている。今後ともこの素晴らしい日々の努力を継続してほしい。</li> </ul>
<p>宿題を含めた家庭学習については、今年度様々な場面で話題の一つとなっている。学年×10分行うことを目安とすることを含め、家庭との連携も大分浸透してきている。今後とも継続して取り組んでいきたい。さらに、保護者のご意見の中には、宿題の質や量について改善を求める声もある。この辺りも次年度に向けて改善する余地のある課題である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発達段階に応じた家庭学習の取り組み方や内容を指導し、家庭学習の充実を図る。「家庭学習の手引き」を活用し、保護者と連携して取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力の問題については、家での過ごし方も大きい部分がある。保護者も共働き等で忙しい面もあるが、家庭でできることは協力していくことが大切である。</li> </ul>
<p>教師の側では、若干肯定的な評価が低くなっているが、保護者の方々には、高い評価をいただけている。日頃からの先生方の姿勢が反映されているものと思われる。個々のご意見の中にも先生方が熱心であることや子どもたちの個性に合わせて認め励ます態度で接していることを評価して下さっているご意見が多い。今後ともこの状態が続くような形で日々の教育活動に取り組んでいきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学級の児童の努力や成果をさらに認め、励ます姿勢をより一層大事にし、児童の意欲の向上を図る。</li> <li>・一人一人の考えを認め合えるような学級づくりに努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちとの関係の良さが示す通り、教師側の努力が子どもから保護者にまで伝わっているところが素晴らしい。今後とも課題の改善に向けた努力を続けてほしい。</li> </ul>

里垣小学校 学校評価 資料

領域	重点目標	番号	評価者	質問紙項目	1	2	3	4	そう思う・ややそう思う・あまりそう思わない・そう思わない	
思いやりのある子どもを育てるために	温かく豊かな生活環境をつくる	8	教師	自ら進んであいさつができるよう指導している。	72	28	0	0		
			児童	まわりの人に進んであいさつをしている。	66	22	7	5		
			保護者	子どもはあいさつがよくできている。	↑53	38	9	0		
		9	教師	正しい言葉づかいができるよう指導している。	72	28	0	0		
			児童	正しい言葉づかいに気をつけている。	47	35	11	6		
			保護者	子どもはその場にあった正しい言葉づかいをしている。	↑39	47	11	2		
		10	教師	思いやりの心や命を大切にすることを育てる指導をしている。	72	28	0	0		
			児童	友達と仲良く生活している。	↑82	15	2	1		
			保護者	思いやりの心や命を大切にすることが育っている。	63	33	4	0		
		11	教師	子どもの悩みや相談を積極的に聞いている。	72	28	0	0		
			児童	先生は困ったときに話を聞いてくれる。	77	17	5	1		
			保護者	子どもは先生を信頼している。	↑77	21	2	0		
元気な子どもを育てるために	運動に親しみ健康な体づくりをめざす	12	教師	個々の能力に応じた運動に取り組ませている。	33	67	0	0		
			児童	体育の授業は楽しい。	80	13	5	3		
			保護者	子どもは体育を楽しみにしている。	69	21	8	2		
		13	教師	体力向上の手立てを講じている。	39	56	6	0		
			児童	運動することや、外に出て遊ぶことは楽しい。	83	13	2	1		
			保護者	子どもの体力がついてきたように思う。	66	23	10	1		
		14	教師	食育・健康教育を計画的に行っている。	↑33	61	6	0		
			児童	食べ物や健康に気を付けて生活している。	66	24	8	3		
			保護者	子どもは食べ物や健康に気を付けている。	42	37	17	4		

自己評価(取組状況・成果・課題)	改善策	学校関係者評価でいただいた意見等
<p>あいさつについては、これまでの取り組みや児童会での日々の活動が認められ、特に保護者の方々に肯定的な評価が多くなっている。個々のご意見の中でも高学年を中心としてあいさつを良くしてくれるというご意見が多く寄せられている。ただ、校内であったときにあまりあいさつをしてくれないという意見もみられるので今後は、更にどんな場面でも気持ちよくあいさつができる環境、体制作りを考えていきたい。</p>	<p>・児童会活動や道徳の時間などを通して、校外からの来客など相手に応じた挨拶ができるよう、学年に応じた指導をしていく。 ・今後も児童会を中心にしたあいさつ運動を続けていく。</p>	<p>・地域でも挨拶のできる子どもを多く見かける。今後ともいい伝統を守ってほしい。 ・地域であいさつをされるととてもうれしいものである。</p>
<p>言葉遣いについては、教師側の支援に対して年々保護者の肯定的な評価が高くなってきている。子どもたちは、まだまだ日頃から気を付けながら生活するというところにまでは至っていないところもあるので、今後とも継続意識して取り組んでいくことが課題である。</p>	<p>・道徳の時間や日々の指導の中で、相手に対する思いやりの心や節度ある態度を育てる中で、正しい言葉遣いに気付かせていくとともに、家庭へも協力を呼び掛けていく。</p>	<p>・言葉遣いを気を付けようとしている子どもたちもいるようなので今後ともふわふわ言葉の取り組みや更に思いやりの心を育てる取り組みを続けていってほしい。</p>
<p>今年度、道徳を校内研究会の柱の一つとして取り上げて取り組んできた。来年度は実践的な場での取り組みへと進めていく。児童や保護者は、学年を問わず子どもたちの仲がいいことをとても高く評価している。特に保護者は、かえで支援との交流が子どもたちの周りを思いやる心を育てていると感じているようである。今後ともこの内容については、継続して取り組むことが必要であると考えられる。</p>	<p>・今年度に引き続き、かえで支援学校との交流やたて割り班活動を行うことで、児童に思いやる心を育てていく。 ・今後ともいじめの早期発見、早期対応に心がけ、児童の生命尊重や思いやる心を育てていく。</p>	<p>・伝統となっている支援学校との交流やたてわり活動など思いやりの心を育てるための取り組みが子どもたちにいい環境づくりとなっている。保護者からの評価も上がっているようなので今後とも継続していってほしい。</p>
<p>この項目も上と同じように教師側の評価は若干下がっている。しかし、児童や保護者は、肯定的な評価が多くなっている項目である。保護者は、1クラスの児童数も適当であり、子どもたちへの目が行き届いている事が信頼できる点として評価している。児童についても優しく、相談しやすい先生が多いととらえているため前年度より更に肯定的な評価が高い。今後は、この状態が持続できるように取り組みを続けたい。</p>	<p>・児童が話しやすい雰囲気をつくり出すために、教師が児童と関わる時間を積極的に生み出していく。</p>	<p>・先生方が優しい、話しやすいと感じている子どもたちが多い。</p>
<p>昨年度と比較すると、児童の肯定評価が若干下がり、保護者はその逆である。一喜一憂する差ではないと思うが、更に、改善するように努力を続けたい。朝の体力づくりやたてわり活動等についてもそれぞれの活動に工夫がみられる。保護者からは、体力の低下を心配する声もみられる。今後は、そのあたりも視野に入れて改善していきたい。</p>	<p>・これまでのように今後も指導の工夫を行うことで、児童が体育に進んで取り組めるようにする。 ・学習カードを活用し、個々の目標をもたせることで一人一人の児童に達成感をもたせられるようにする。</p>	<p>・昔と比べると子どもたちの生活状況にも大きな変化がある。「体育の時間を増やしてほしい」という意見が1人からしか上がらなかったのは驚きである。放課後の子どもたちの過ごし方にも大人が関心を持つことも大切なのではないか。</p>
<p>たてわり活動については、他の活動も評価は高いが、体力づくりやレクリエーション的な外遊びに関しても工夫した活動が行われている。このことが児童や保護者の肯定的な評価を押し上げていると考えられる。今後ともこの良い習慣を継続維持することで子どもたちが楽しみながら外遊びや体力づくりを続けられるようにしたい。</p>	<p>・体力づくりやたてわり活動レクリエーション的な外遊びに関しても工夫した活動が行われている。今後とも子どもたちが楽しみながら外遊びや体力づくりを続けられるようにする。</p>	<p>・たてわり活動を通して学校全体で仲の良い子供たちが増えていっているところが良い。今後とも、取り組みを続けてほしい。</p>
<p>食育・健康教育については、今年度も給食主任、養護教諭、栄養教諭を中心として取り組み、折あるごとに学級での食育・健康教育を行ってきた。その内容等については、各担当からのお便り等も含め、学級活動の際にも行われているところである。保護者の視点からするとまだまだ児童が注意して生活するところまでは至っていないと感じている保護者もいる。自分から進んで行えるような取り組みをすることや家庭との連携を視野に入れた取り組みを模索していくことも課題の一つであると考えられる。</p>	<p>・教師は、学活や給食の時間を通して、食や健康の大切さについて児童に理解させる。また、保健だよりや給食だよりの配付を通して家庭の協力を得る。</p>	<p>・給食がおいしいという意見を持っている子どもが多いことが素晴らしい。保護者や地域も給食の現状を知るような機会を設けてもらえるとうれしい。 ・里垣小は、残菜が多いと聞いている。無理なく好き嫌いがなくなるような形で今後とも取り組みを続けてほしい。</p>

里垣小学校 学校評価 資料

領域	重点目標	番号	評価者	質問紙項目	1	2	3	4	そう思う・ややそう思う・あまりそう思わない・そう思わない
安全安心な学校にするために	自分の身を守る力を育てる	15	教師	防災・防犯訓練を生かして、危機管理指導を行っている。	67	33	0	0	
			児童	地震や火事、こわい人への対応がわかる。	79	14	4	3	
			保護者	子どもは防災・防犯に対して、どのように対応するかわかっている。	41	50	9	0	
		16	教師	登下校の安全指導を日常的に行っている。	72	28	0	0	
			児童	交通ルールを守り、安全に登校している。	82	15	2	1	
			保護者	子どもは登下校の安全に気をつけている。	44	47	8.2	1.1	
		17	教師	子どもの安全に気を配っている。	89	11	0	0	
			児童	学校は安全だと思う。	72	18	6	3	
			保護者	学校は子ども達の安全に配慮している。	69	27	3	1	
信頼される学校にするために	保護者・地域との連携・交流を充実する	18	教師	地域行事に参加している。	65	35	0	0	
			保護者	学校は地域や保護者と積極的に交流・連携をとろうと努力している。	63	31	5	0	
		19	教師	学校の教育活動を保護者や地域に知らせ理解を得ている。	78	22	0	0	
			保護者	学校便りやホームページから、学校の様子がよくわかる。	55	35	9	1	
		20	教師	保護者の相談にすばやく対応している。	89	11	0	0	
			保護者	学校に保護者や子どものことを気軽に相談できる。	62	33	5	0	

自己評価(取組状況・成果・課題)	改善策	学校関係者評価でいただいた意見等
<p>今年度も防災訓練については、年に5回。防犯訓練については、年に1回行ってきている。昨年度に比べて、保護者や児童の肯定的評価も高くなっているところは継続による成果であると考えられる。しかし、児童の中に自分で対応することまでは自信が持っていない児童がみられる。様々な場面でのどのような判断で対応するかを更に綿密な指導を行うことが課題である。</p>	<p>・児童が「自ら考え行動する」意識を高めるために昨年度から取り組んでいる予告なしの防災訓練を行い、事後指導として振り返りや今後の行動を考える場を設定していく。  ・安全教育主任と防災主任による「安全マップ」見直し、町別児童会における「安全マップ」の確認、保護者への「安全マップ」の配付の取り組みを継続していく。</p>	<p>・スクールゾーンを地域や学校で、安全性の高いものにできないか。  ・里垣小の南側の道路は、相当数の自転車と車が交差する。スクールゾーンのラインをきまりに合わせて引いてほしいと市や警察当局には話をしている。  ・申請から改善されるまでには、相当な時間がかかる。今後も申請を続けることが大切である。</p>
<p>今年度は、地域の協力で、1年生の交通安全教室を1回増やした。集団登校については、高学年が見本となり安全に気を付けて登校できていると考えられる。下校に関しては、保護者の意見にもみられることだが高学年を中心に心配をしている方もいる。今後更に児童数が減少していくことを考えると下校を含めた放課後の児童の安全を地域とともに対策を考えることが課題である。</p>	<p>・児童の下校時の安全への意識が高まるように、学級担任は各学級において帰りの会で落ち着いて帰ること、同じ方向の児童同士まとまって帰ることを指導していく。  ・通学路の安全に関わって、危険を防止するための対策がとれるように、学校は警察へ働きかけていく。また、学級担任は児童への注意喚起をしていくと共に、家庭にはマメルメールを通して情報を発信していく。</p>	<p>・里垣の学区には、様々な校種の学校がある。どこがスクールゾーンであるかを知らない地元の方々もいる。「安協だより」などを通して周知していくことも大切である。</p>
<p>安全面に関する評価は、全体的な傾向はほとんど変わらない。今年度は、北館、体育館のリニューアルが行われたこともあって児童の自由記述に校舎がきれいになったことを評価する児童が多かった。施設面での安全については、ほとんど改善点を感じないような形になっている。一方で、相変わらず児童の廊下や階段の歩行の仕方などについては、児童会での取り組みにも関わらずなかなか改善していないところもみられる。来年度に向けての課題である。</p>	<p>・廊下や階段の歩行、校舎内外の過ごし方については、今後も継続して、児童会の生活目標と関連させながら、児童会担当や生活指導主任を中心に指導を行う。また、学級担任は児童自身にも安全な生活についてあらゆる機会を通して考えさせ、実践できるように繰り返し指導していく。</p>	<p>・さらに安全に登下校できるようにスクールゾーン内にもグリーンラインを引いてもらえるように里垣、酒折の安協が協力して市や警察に働きかけていきたい。  ・地域の方と子どもたちの顔をつなぐためにも地域の「見守り隊」などの活動も必要なのではないか</p>
<p>地域との連携については、教師側全員が肯定的な評価になった。今後は開府500年等地域に関連した学習や地域の特性を生かした学習などは、保護者からの評価も高い。昨年度から始まった地域ぐるみボランティアの取り組みなども浸透すると更に連携が深まると考えられる。</p>	<p>・里垣子ども広場、地区運動会等地域の行事が多くあるので、職員も自分の分掌や学年と関連する行事に引き続き参加することにより、地域や保護者との交流を図っていく。</p>	<p>・地域ぐるみボランティアの活動を含めて学校と地域がいい協力関係を作っている。今後とも維持、発展させてもらいたい。  ・子どもたちの参加で初めて狙いが達成できる行事も多く。今の協力関係は、地域としても有りがたいと思っている。</p>
<p>今年度も学年、学校だよりやホームページなど学校の取り組みを積極的に知らせようと努力をしてきているが、ホームページの更新の頻度や内容については、保護者の側から厳しいご意見もいただいた。次年度に向けてどのような形で情報提供をするかを検討することが課題である。</p>	<p>・学年で行事や活動をホームページにアップする。また、更新したことを呼びかけ、学年だよりで伝える。</p>	
<p>保護者との対応については、教師側の努力が保護者の肯定的な評価の向上として認められた形である。今後とも外部機関との連携も含めてきめ細かい対応を心がけ、保護者のニーズに合った相談体制を心がけていきたい。</p>	<p>・保護者が学校に相談しやすい関係を築けるように、家庭訪問や懇談会の機会に学校や家庭の様子の情報交換をしたり、連絡帳や電話などで日常的に連絡を取ったりできるようにする。  ・学校は、スクールカウンセラーが来校し相談できる日を知らせる</p>	<p>・今後とも様々な形で保護者の子育てや教育に関する相談体制を充実させていってほしい。</p>